第１２期 第１回 鳥取市校区審議会 議事録

１　日　時　　平成２５年１１月２７日（水）１４時００分 ～１６時３０分

２　会　場　　鳥取市役所　第二庁舎５階第１会議室

３　出席者　　【委員】
渡部昭男委員(会長)、岩崎憲一委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、片山敬子委員、有本健一委員、吉澤春樹委員、上山弘子委員、有本喜美男委員、牛尾柳一郎委員、山本源五郎委員、谷口好宏委員
欠席：米原隆生委員、神谷正恵委員、横西経雄委員、平尾司砂委員、
倉持裕彌アドバイザー
【教育委員会（事務局）】
木村正人次長、神谷康弘室長、橋本浩之課長補佐、小谷昇一主幹、清水圭二主任
河井登志夫次長

４　会議次第
１ 開　会
２ 委　嘱
３ 教育長あいさつ
４ 委員自己紹介
５ 校区審議会についての説明
（１）鳥取市校区審議会条例
（２）鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則
６ 会長・副会長選出
７ 会長あいさつ
８ 諮問
９ 議事録署名委員の選出
10 報告
（１）審議経過について
（２）第１１期第１４回校区審議会議事概要について
（３）意見交換会発言一覧
11 議事
（１）校区審議の今後の進め方について
（２）その他
12 その他
13 閉　会

５　議事の概要

事務局　　こんにちは。それでは只今より第１２期第１回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。
まず本日の出欠につきまして、学識経験者の米原隆生委員、神谷正恵委員、公募委員の横西経雄委員、平尾司砂委員、そして倉持裕彌アドバイザーはご欠席でございます。ですが、過半数の出席をいただいており、会議は成立いたしますので、ご報告いたします。
続きまして、委員委嘱につきまして、本日付で皆さまには、第１２期鳥取市校区審議会委員として委嘱させていただきます。なお、委嘱状につきましては机上交付にて、個々の交付は省略させていただきますことをご了承ください。

また、欠席の委員につきましては、送付をもって交付とさせていただきます。
それでは、開会に先立ちまして校区審議会の発足にあたり、鳥取市教育長の木下法広が、ご挨拶申し上げます。

教育長　皆さんこんにちは、教育長でございます。
鳥取市校区審議会、第１２期を迎えまして、本日は第１回目の審議会であります。お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。任期を新たに、新しく７名の委員になられました計１５名の皆さんに、校区の審議会についてお世話になることになっております。どうぞよろしくお願いいたします。
十分ご承知のことと思いますが、この審議会は鳥取市の小学校、中学校の校区に関する事項について調査、審議をしていただく場であります。
特に平成１８年度から始まりました第９期以降の審議会については、第９期で宮ノ下小学校と岩倉小学校区のその一部の再編について審議をいただいております。
それから第１０期では、佐治中と用瀬中の統合についての審議でございました。
そして第１１期は、西部地域の小学校、中学校のあり方についてのご審議をいただいているところであります。特に青谷中学校、気高中学校、鹿野中学校３つの中学校のあり方については、市民の皆さんの大きな関心の中でご審議をいただき、青谷中学校、気高中学校それぞれの改築が望ましい旨の答申を先般いただいておるところであります。
さて、時代の変化の中で、子ども達が減少していく今日であります。子ども達にとってふさわしい教育環境というのはどういうものであるのか、「ただ単に子どもの数、児童生徒の数を増やせばいい」という議論だけではなく、将来どんな学校で、どんな教育を子ども達にしていくのがいいのか、その辺りをしっかりと考えていく時ではないかと思っております。
そしてその仕事は、行政だけが考えていく話ではなく、子ども達の将来の親であったり、あるいは今学校に通わせている親御さんであったり、あるいは地域の方であったり、まさに大人みんなでこの問題の責任を共有しながら考えていくものであると考えています。
このことには、夢があり、希望があり、工夫がありという、そういう営みだと思っております。
本年度から学校教育課に校区審議室を設置しております。これまで西部地域の中学校の問題に力を尽くしてまいりました。その中で学校の耐震化ということについて、目途もたち、学校のあり方を検討していく時間的な余裕がでてきました。
今後は教育委員会事務局といたしましても、様々に情報提供させていただきますので、先に話をしたように、時代を展望した学校のあり方、そしてそれに関わる問題等について、皆さん方にこれからご審議をお願いしたいと思っております。
任期は２年間ということでございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局　ここで第１回目の開催となりますので、委員皆さんの自己紹介をお願いしたいと思います。お手元の資料に委員名簿を載せておりますので、その名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。

〔自己紹介（事務局も含む）〕

事務局　次にこの校区審議会につきまして、校区審議室長から説明します。

事務局　校区審議会について説明。

事務局　続きまして、会長・副会長の選出に入りますが、条例によりまして会長・副会長

は委員の互選により定めるということになっています。
　委員の皆さま、いかがいたしましょうか。

委　員　　これまでのご経験なり、ご識見なりありまして、引き続き渡部昭男委員を会長に、岩崎憲一委員を副会長に推薦したいと思います。

委　員　　異議ありません。

事務局　　委員から、会長に渡部昭男委員、副会長に岩崎憲一委員を推薦していただき、異議なしの声もありました。
　みなさん、よろしいでしょうか。

委　員　　《拍手》

事務局　　拍手多数ということで、ご推薦のとおり選出決定いたします。
　それでは、渡部会長、岩崎副会長に改めてあいさつをいただきたいと思います。

会　長　　ご推挙いただきありがとうございます。私は第９期から務めています。
　先程説明がありました第８期までは、何か課題があった時だけ召集されていた審議会だと聞いています。
　第９期からは、校区の問題は、地域と学校の問題であるという考えから、ほぼ常設された形で１ヵ月ないし２ヵ月おきぐらいに審議会を開き、鳥取市の「学校教育と地域のあり方」ということを審議してまいりました。
　今回新しく７名の委員が参加されたということで、今までの継続発展はもちろんですけれども、新しい委員の新たな観点もお聞かせいただいて、鳥取市全体の「地域と教育のあり方」について深めることが出来ればと思います。どうぞよろしくお願いします。

副会長　　副会長に推薦いただきました岩崎でございます。よろしくお願いいたします。
　会長と第９期から副会長としてやってこさせていただいたのですけれども、現在では教育環境自体が大きく変ってきていますし、社会環境も非常に変化しています。その中で鳥取市の教育を考えていく時代に入っていると思います。そこに関わることができてありがたく思います。よろしくお願いします。

事務局　　どうぞよろしくお願いいたします。
　続きまして、教育委員会からの諮問です。
　まず、諮問書を教育委員長職務代理者からお渡ししたいと思います。
　内容は、資料の６ページに載せておりますので、ご確認ください。

職務代理者　　諮問書を朗読し、校区審議会会長へ手渡し。

事務局　　ここで、大変申し訳ございませんが、教育委員、教育長は次の予定がございますので、退席させていただきます。
　（教育委員、教育長　退席）

事務局　　ここからの会議の進行は、渡部会長にお願いしますので、よろしくお願いします。

会　長　　第１２期は、第１１期の議論を引き継ぐ形となっています。第１１期と言いますのは、大きな意味での結論は出ておりませんで、継続審議という形になっています。

したがって、この第１２期でかなり大きな形でのまとめを行う予定としております。

まず、議事録署名委員ですけれども、審議された内容は議事録という形で残されてホームページにアップされます。その議事録について委員のうち毎回２人ずつ議事録署名委員をお願いしています。突然のことではありますが新しい委員から順番にさせていただきますので、牛尾委員と山本委員にお願いしたいと思います。

要領につきましては、後で事務局から説明させていただきます。

それでは、今日は１回目ということもありまして、第１１期からの審議の概要をお伝えいただくということと、それぞれの委員の思いのようなものをお聞かせいただくということを主のねらいとして進めたいと思います。

それでは早速、報告事項に入りたいと思いますので、事務局でお願いします。

事務局　報告事項の説明。

事務局　地域での説明会及び意見交換会の資料（スライド）を説明。

会　長　ここで一旦休憩を取ります。

（休憩）

会　長　それでは再開します。

再開にあたりまして、前回の会議が１０月１０日にありましたが、それ以降に市議会であるとか、地域での説明会について、少し補足をお願いできますか。

事務局　前回、報告事項、答申について審議会で決定いただき、１０月２５日の定例教育委員会で答申書を教育委員会へ提出しました。それを受けて今日の諮問という事になっております。

それから、前回以降の意見交換会については資料にありますように、地域に出かけ、出てきた意見の内容やそれに対する回答等を載せています。

気高地域で３回、それから鹿野で１回、明治の教育を考える会、それから青谷でも実施しております。さらに福部の教育を考える会にも行いました。

特に最近では、西部地域の議論のような統合ありき、ということではなく、校区審議会が何を考えているのかというところを中心に説明しています。

動きとしては、この前福部の会から具体的な小中一貫校の勉強がしたい。あるいは、コミュニティスクールの考え方等、色々勉強がしたいので説明に来てほしいという、逆に投げかけがありまして、校区審議会の考え方はもちろんですけれども、そういったあらゆる可能性といいますか、「何をどう考えたらいいのか分からない、そういう勉強がしたい」という依頼がありまして、校区審議室だけではなく、指導主事も同席し、そういった説明をさせていただきました。

教育を考える会というのは、現段階で出来ていると聞いているところは、福部と明治だけですけれども、これからどうやってそういう組織づくりを進めていくのか、というところが課題ではないかと思います。

リーダーといいますかキーマンといいますか、そういう方がいるといないとでは、ずいぶん違うのかなという気がしています。

会　長　市議会の方はどうでしょうか。

事務局　市議会の方では特にないです。明日が１１月議会の一般質問の締切りでして、今のところ校区審議のことについての質問は出ていません。

会　長　　福部の話が出ましたので、福部がその後どういうふうに進んでいるとか、勉強会の進み具合とか、教えていただけますか。

委　員　　前回１０月にお話しした時には、校区審議室（事務局）に来ていただいて話をしていただきたい、というところで止めておりましたが、先ほども説明がありましたように、１０月の終わりに事務局に来ていただいて勉強会ですね、答申のほうにも小中一貫校だけでなく色んな形があるということも示されていましたので、私たちのところでの意識調査をした時には、「小中一貫校」という言葉しかキーワードとしては出してなかったものですから、それが例えば突然「コミュニティスクール」という言葉が出てきた時にそれは何だということで混乱してはいけないという事で勉強会を開いて、こういう形があるよとか、ＩＴを用いた形もあるよとか、いう説明をしていただいたところです。
　それで、意識調査の方が、学校関係はすでに終わっていたのですが、地域の方のとりまとめがこの度終わりまして、２８日に考察の会議を１回開こうということで、話をしているところです。それを受けてどういう形に持っていこうかという話し合いを進めているところです。今のところはそういう状況です。

会　長　　それでは、報告事項への質問も含めて、一応議事の方へ入りまして、委員の皆さんに１回以上はご発言いただければと思っています。
　それでは、議事のご説明をいただけますでしょうか。

事務局　　議事について説明。

会　長　　はじめに少しスケジュールの件で質問ですが、資料に今回の諮問事項があります。諮問が出されてだいたい任期満了まで２年間審議して、最終で何らかの答申、まとめというのが通常だと思うのですが、少しずれているのです。４月ぐらいに何らかの形という事なのですが、西部地域の部分は一応答申を出しましたので、事務局では４月までに答申ないしまとめが欲しいような何か理由があるのでしょうか。もし無ければ、可能な事項からまとめていきながら、最終的には２年間じっくり審議をして、まとめを出しても支障はないのかどうか、ということをお聞かせください。

事務局　　４月と申し上げているのは、校区審議会の中で、確認事項として答申時期について議論をいただいた経過があります。当初は２５年１０月と言っていましたが、それでは厳しいだろうということで、第１１期第９回の審議会の中で、２６年４月まで延ばそうという事に決めました。
　ただ、結果として中学校の改築について、一旦は現地で改築という事になりましたので、期間的にどうしても４月に答申を出さなくてはいけないということは無いです。この審議会でどうするかという事も議論していただければと考えています。

会　長　　それでは、有本委員の方から、これまでの報告事項や議事の方向性等を踏まえたうえで、これから２年間どんな形で議論を進めていくべきか、何か思っておられることをお願いできませんか。

委　員　　先ほどの説明やスライド資料等は、継続委員にとってはこれまでの復習という形になったと思います。
　しかし、新しい委員が７人、半分おられて、この場で膨大な資料を読む時間もありませんし、これまでの議論内容も分からない状況で、これからの議論が進められるのか心配しています。
　特に前期第１１期の議事録なんかは、新しい委員にも配布したほうがいいのでは

ないかと思います。
　それから、中間とりまとめまでに色々な議論をして、例えば緊急度ＡとかＢとか課題の整理をしています。これは今後の議論の中で変わる可能性もありますが、これまで積み上げてきた議論もあるわけで、新しい委員を含めてこれから議論をする中で、緊急度Ａの位置づけを巡って問題だという事になれば、議論が後戻りすることも考えられるわけです。
　そうならないように、適切な方法ではないかもしれませんが、例えばこれまでの資料も提示いただきながら、事務局と新しい委員との若干の勉強会等をしていただいて、これまでの議論の状況や内容、６年の年数をかけて積み上げてきて、なぜこの小学校、中学校が緊急度Ａに位置づけられて、濃い論議をして答申に反映していくかという、ところの共通認識をしないと、後数回の会議、答申に向けてより深い議論ができないのではないかと思った次第です。
　特に１１期の議論は濃いものがありますから、大変でしょうけれども、議事録を全部読んで勉強をしていただかないと、議論している内容やその思いがすぐには伝わらないこともあるのではないかと思います。
　その辺りについて、ご意見を承って事務局はそれなりに対応するという事をされるべきだと思います。

委　員　　他の審議会委員をしていたことがあって、新しくなった場合は事前に資料を送っていただいて読む時間をとっていただいたことがあったので、そういう事が可能であればお願いできたらと思います。
　内容を熟知できていない部分もありますので、おいおい議論に入らさせていただけたらと思います。

委　員　　当然、これまで８年間審議されてきた経過は知らない訳で、資料を読んで勉強しなければならないと思います。
　新しい委員は経過が分からない部分もあるので、勉強会をされるようであれば、参加させていただきます。

委　員　　さきがたまでの話で、自己紹介の時にも話をしましたが、校区の問題と地区の問題という事もあります。色々な問題を抱えている地域といいますか小学校区として、考える会を６月に立ち上げて、１０月と２回会議を開催しました。その段階で、ホームページで中間とりまとめや審議会の議事録を読みました。
　明治を考える会でも色々な意見がたくさんあるわけです。
　それで、その中で出席された人の意見は聞けるのですが、後から言われる出席されなかった人の意見というのも吸い上げていかないことには、地域としての方向性を決めることができないと思います。そのため、何とか地域の意見を引っ張り出してこようと公民館だよりにも掲載してＰＲしているところです。
　それと、子ども達の意見を汲み上げていくのは、今の段階では小学校のＰＴＡ、明治小学校のＰＴＡも今度説明会を依頼していて、近いうちに説明会をされると思います。
　もう一つは、明治小学校と旧豊実小学校の両方の子ども達が通う豊実保育園というのがあって、そこでは将来明治小学校と世紀小学校に入学の段階で分かれてしまい、中学校ではまた合流します。
　小学校区を見直す場合に、明治の方が山間部で、豊実は野坂にあって、そこの関係で校区と地区の整合性を図って統一するという事であれば、市街地に近い所の方は、山間部の人が取りまとめをして、頼みにきなさい、というスタンスです。
　そういう事では、地域、地区としてつまんないのではないかということで、これから何らかの形で集会に参加してこない方々の意見も、大半は年寄の方なのですが、

昔明治から出て行った人たちは知らない、というような変な敵対心みたいなものがあり、地区と小学校区が上手にという事は難しいので、当面は考えていることを吐き出してください、と、それを聞いてどうするのかという所は、これからにしましょう、という、今はそういう状況です。

来年の４月に何らかの形の方向性が地域としては、まだ出せないと思っているので、さきがた言われたように来年の４月の答申とかいうような形で、明治地域のある程度の方向性はまだ早いのではないかという感じで思っています。

これから、勉強させていただいて、新委員として勉強会という事であれば参加させていただきますので、よろしくお願いします。

会　長　　新しい委員の新鮮な意見や視点も重要だと思いますので、遠慮なく出していただければと思います。

委　員　　福部中学校をどうするかというような話が地域審議会で出た場合に、地区の中心にある学校をどうこうするという話をなんの権限もない福部の教育を考える会が決定してしまっていいのか、というような意見を言われる方がありました。

地域審議会自体がそういったことを審議する会では元々ないので、そこでの審議というのはもちろんないですし、そういった時に本当に地域の拠点として考えている学校を存続させるかどうするかというようなところを、私たちが決めてしまってもいいのかなという一抹の不安もありながら、そういうふうに考える方も地域にいらっしゃるというのは、思ってもみませんでした。

どちらにしても福部の子ども達をどういうふうな子どもに育てるかという事では、皆さんと話では共有できるのかなと思っていますので、何とかいい方向に持っていきたいな、と今は考えています。

それと、西部地域で青谷中学校が改築とひとまず決まったという所ではありますが、それで終わりではないという話ですよね。終わりではないと言いながらも、しばらくは現状のままで行くのでしょうけれども、なかなか地域の皆さんもテンションが下がってしまうのかな、やれやれというところで落ち着いてしまうのではないかというふうに思います。

それは、これから考えていくにしても、しばらくはこのままなのかな、という事であれば、議論から外す可能性もあるのかなと、私の中では思っています。

青谷中学校自体が現在建っている範囲から広げるという事は難しいですよね。遺跡の関係でそれ以上のことはできないという事ですよね。

事務局　　そうですね。青谷中学校で申し上げますと、どうしても埋蔵文化財の関係があるので、もし現状以上に広げて改築する場合は、発掘調査をして、分遣として残してという事になると、整備が遅れるという事がありますから、内容は別にして現位置での建て替えにならざるを得ないと思っています。

委　員　　青谷の小学校が統合して１校となって青谷高校の近くにあるのですけれども、またそれを例えば青谷町として小中を一つに一貫校にするのだということも、非常に難しい話になるのかなと思います。

青谷中学校の改築という事であれば、他の緊急度の高いところの議論を進めて、青谷地域の議論は、しばらくはいいのかなと思ったりします。

委　員　　小学校ＰＴＡ連合会で、その後緊急度Ａの対象の会長を集めてという事はしていないのですが、個々の会長は行事ごとで会う機会があったので、それぞれで話をさせていただいていまして、聞いている限りではどこの学校でもＰＴＡの中では１回ぐらいは話し合いを持っておられて、アンケートも西郷小学校は今のところされて

いないようですが、概ね実施しておられるみたいです。
　その中で、ＰＴＡ会長が１年、又は２年で変わってしまって、その後この話から外れてしまうという事があまりよろしくないので、要望として仮に会長を交代されても残るような組織を作っていただくようにお願いしているところですが、なかなか組織をつくるという事は難しいので、もう少し勉強してテコ入れ、お手伝いができる事があればと思っています。
　先日の湖南学園であった小中一貫校の研究大会で勉強させていただきましたし、自身が倉吉出身でもあり、県の会議で倉吉市小Ｐ連の会長とも会う機会もあり、倉吉市の統合の情報も入ってくるので、その辺りでいい情報があれば他の方にも情報提供できるかなと思っています。
　今のところ年度末に各学校のアンケートをまとめて、一応今の時点での状況を取りまとめたいと考えています。

委　員　　中学校長会の代表としてこの会に出るのは初めてなのですけれども、これまで校長会の意見交換の中で思うことがあります。
　この校区審議会と中学校長会、それから出席する自身の立ち位置というものを、明確にしなければいけないと思います。意見の中には個人の意見というのも出さないといけない部分はあると思いますが、やはり中学校長会の思いというものを話していく、そういう意見集約ができてこの会に臨めたら、という思いでいます。
　それにあたって、先ほど勉強してから出るという事が必要ではないというご意見もありましたけれども、まさにその通りでして、様々な地域に出かけて保護者や地域の方々へ、例えば一貫校等この地域における学校のあり方はどうだ、というような説明会がこれまでも持たれています。学校というのは本当に地域や保護者の願いのある中で、地域のコミュニティセンターと言われるのが良くわかります。今度は校長会の立場というより学校の立ち位置ということを考えた時に、学校の責任者としての立ち位置はどういうふうにあるのだろうか。学校長としての願いとか、あるいは職員の願いとかはどんなふうに伝わるのだろうか、又は話し合いに入れるのだろうか。先ほど福部のような形のこともあるかもしれませんけれども、そういうようなことが学校の責任者として学校の関わりを今後しっかり考えていかないといけないと思います。
　ついては、この最近のところでは、千代南中学校の開校までの経緯、それから今回の西部地域の問題における様々な話、こういう時に該当校の校長が要望を言っておられたことは、事務局からの事前の連絡やその後の進捗状況というようなことも欲しかった、という要望を聞いてきているところです。
　西部地域のことは、少し落ち着きかけているということを報告としては聞いているのですけれども、落ち着きかけて我々の議論が切羽詰っていない時にそういう組織づくりや話の流れということを、きちんと組み立てていく必要があるのではないかと思っているところです。
　最後に、鳥取市の教育基本構想に「ふるさとを思い」ということが冒頭に出ています。やはり学校の立場からしたら地域、保護者の協力なしには、学校は成り立ちません。学校がいかに地域の中で大切なものかということを、改めて認識させられるところです。
　そういう意味でこういう話になった時には、学校、地域、保護者が一緒になった立ち位置で動けたらという事を思うところです。

委　員　　まず、大変重い職をいただいたと思っています。今年西部地域の話が出てまいりまして、その中の１つ瑞穂小学校がどうなるのかというところからスタートしました。きちんとした話を聞く前に外からの方から「学校がなくなるだって」というような話が入ってきたり、それに対して保護者や地域からも「どうなっているのだろ

う」という心配の声も寄せられたりしました。
本当に先がどうなるのだろうという不安が、最初は地域全体に襲ってきたという感じがあり、突然という感じがしました。
もともとの話の中では中学校の統合に伴う移転問題という事が、最初には聞かれていたので、それと小学校の統合がどう絡まっているのだろうというところがはっきりとしていませんでしたし、資料にも緊急度Ａ、Ｂとあるのですけれども、耐震というところから見ると緊急度Ａ、Ｂというのはあるのですけれども、規模の問題や、現状でいいのかという部分の緊急度と言われると、どこに基準があるのだろうということにもなり、地域や保護者が混乱されたと思います。
ですが、このことで学校の中でもアンケートをとるであるとか、話し合いを持つであるとか、それからまちづくり協議会の中で他県のもっと小さな学校がどのような取り組みで存続しているのかということを視察されたというように、これをきっかけに考える機会を得ることができたということについては、一つの意味があったと思います。
今年度たまたま本校が１４０周年という節目があり、今までを振り返ってこれからの学校のあり方を考えるのには、タイミング的に一つの契機として大きな意味を持ったのではないかと思っています。
それで、結論が出ているわけではではないという事ですが、これからどうなるのだろうという不安の中で、とにかく議論を尽くしたいという思いから、何とか答申を出す時期を４月にしていただけないかという話は、校区の中でありました。
１０月の中で一つの方向が出た段階で、これまで色々な学校のあり方や、子ども達が将来どうあるべきか等、地域と一緒になって考えた時に時間としては、意味のある時間を持つことが出来たと思っています。
それで、これで終わりといことではなくて、これを継続していく中で、これから考える時間が確保できているのではないかと思いますので、その時間の中で地域と学校と家庭の３つのあり方というものを、どういう形が子ども達の教育にとって充実する一番いい形なのか、枠組みはどうなのか、ということを考えていく時間をこれから持っていけたらと思います。
地域の意見を集約するというのでアンケートも実施しましたけれども、それだけでは吸い上げられない部分、例えば家庭の中でも意見が分かれているということもあったりしていますので、全員の意見を確実に吸い上げることには限界があるのかもしれませんけれども、でも本当にどういう形がいいのかということについては、最大限努力するべきだと思います。
それから、小学校の校長会としてここに出させていただいている訳なのですけれども、その中でどの辺り、どこまでの発言をさせていただいたらという事を、すごく悩むところです。小学校長会の組織の中で、該当となっている学校もたくさんありますし、そうでなくても考えなければならない課題を持っておられる学校もありますので、その辺りの意見を少しでも多くこの場に届けて、解決までとはいきませんが、方向性を見つけることができたらいいのかなと思っています。
先ほどから勉強会のことが出ていますけれども、発言させていただく内容が、今までの何年間かの議論の中で、すでに終わっていることがもしもあれば、議論が戻ってしまうのではないかと危惧しますので、これまで積み上げてこられたものと整合が取れて、より高い議論となるようにできたらと思います。

委　員　　市の自治連に出ておられる自治会長は地区の代表で、ある程度何年も継続される方がかなりあります。けれども地区の中の単位区長は１年でほとんど代わられるので、地区の中では毎年が新しい課題が集まります。それで自治会長、区長というのは、地域の活性化ということを第一に考えますので、そうすると学校がなくなると困る、寂れる、という事を一番心配されるので、だれも地元の学校は残した方がい

いという姿勢はあります。
　けれども、西部地域で取られたアンケートの中で、やはりＰＴＡでは子どもの教育ということを考えたら大きな学校に行かせたいという意見が相当あります。
　そういうギャップがあるということで、緊急度の高い西部地域の自治会長には、福部のような全体的に教育について考えるような会をつくってください、ということを話して、３地域がこれからつくられていくように思いますが、その検討をこれからされる段階でも、ＰＴＡと区長会をやっておられる方とは、考え方の差がかなりあると思います。
　どちらにしても、多様な意見がある中で片寄った意見で納まることはないと思いますので、地域の思いを伺ったうえで、審議会としてある程度の方向性を出していくようにしないと、確実な答えを待っていてはいつまでたっても前に進まないと思います。強引とは言いませんが、ある程度の方向性を提案されるほうがいいのではないかと思います。

副会長　　岩倉の中高一貫校の動きというのはどうでしょうか。
　どれくらいの規模で入学、進学されていくのかというあたりはどうでしょうか。
　なぜ気になるかと言いますと、前委員の方が言っておられたのですけれども、逃げ道としての小中一貫校というような見方をしている方もあるのではないか、というお話がありました。その時にもし小中一貫校を作った段階で、今度は中高一貫校が出来ますと小学校を終わった段階で、場合によれば見直される可能性があると思います。保育園の保護者でリセットをしたいという気持ちを持っておられる方は、どこかリセットできる場を求められると思います。その場合に、中高一貫校というのも一つの視野に入ってくるのではないかと。それが非常に今回の場合も、ここの校区審議をしていく中の一つとして、私立の学校で特に一貫校となると、それまでは地元の学校に行かせて、節目のリセットできる段階で次のステップ等考えられると、中学校の段階で変わっていくということもあると思います。中高一貫校となると義務教育の中学校部分を含んでいますので、その辺の動きというものをもう少し認識しておく必要あるのではないかと思います。
　前に話がありましたが、福部の場合は小中一貫校ということも視野に入れておられるのであれば、そういうふうな危惧も頭の中に置きながら、校区の審議をしていく必要があるのではないかという気がしております。

事務局　　来年度中学校に入ってくる児童の状況調査をやっております。これまで実績がありましたら、ある程度の見込みは把握できると思いますが、今年度はまったくデータがありません。それで、今調査して、数の確認をしているところで、どのぐらいの数の子どもが、そちらに向かうかという事は事務局も把握できていません。
　もう１点は、確かに言われたような中高一貫校の中で、例えば小学校を卒業した段階でそこに向かっていける一つの条件が揃うと、そういう中で小中一貫校、これがはたしてどうか、という意見だったと思います。
　その中で、我々が考えるのは、湖南学園に教育の可能性というか、小学校、中学校をつないだからこそできる教育というものがあったと思います。
　これを中高から始める、これだけではできていない部分があると思います。だから我々はそこに賭けている、小中一貫の良さ、だからこういう教育ができるのです、と、これをアピールしていく、その中でプラスに捉え、子どもを育てていけば、決して負のイメージの小中一貫ではない、胸を張って小中一貫校であるということが言える、そういう学校づくりにしていきたいと思っているところです。

副会長　　もう１点。
　青谷で非常に教育に熱心な方からの意見として、１１期のメンバーの中に気高の

出身の方がおられなかった、何で入っていなかったのか、というご意見があったという事だけ、お伝えしておきます。

委員　　事務局の方に関わりがあるのですけれども、第１１期までの経験として、○○地域の教育を考える会といった、特に緊急度Ａに当たる地域の意見集約組織を非常に位置づけとして重要視している訳ですけれども、その後、明治、福部以外で、そういう組織の設置といいますか、まとまり具合、スタートの報告がありませんでした。
　そういう窓口、取りまとめする組織がなく、活動しないままで、桜の花が咲くころまでに審議会の答申が出るものかと心配しています。
　我々が出かけていく機会もないまま、この会場の議論だけで、まとめていくことが出来るのだろうか、というような危惧を持っています。
　先ほど福部の話で、地域審議会にまず呼びかけをというようなことで発足したと思うのですが、さらに権限も機能もないような組織にまかせていいのか、という話が出ているようですし、どのようになっているのか、お聞かせください。

会　長　　もうすでにスタートしているのは、福部と明治で、少し立ち上がりそうなところというのは、何か話が伝わっていますか。

事務局　　校区審議会の考え方を説明させていただく中で、どうやってつくっていこうかというような議論が出てきている場所もありますが、具体的にこういう動きになったとか、できたとかいう段階までの話にはなっていません。
　正直に言うと、出てこられる人は非常に問題意識があって、何とか考えないといけないという気持ちだと思いますが、言われるのは、人が集まらなくて申し訳ない、ということを言われます。出てきてもらわないことには意見も聞けないし、どうしていいのかも議論も出来ない、ですからこういう状態を何とかしないと、という問題意識はあるのですけれども、その次のステップがどうなのかというところが、こちらが強制的にこういったメンバーでつくってください、というやり方があるいはありなのかもしれませんが、果たしてそれがいいのかどうか、というところもあって、未だ積極的に行政主導で動きをかけているということはなく、１０月、１１月で投げかけさせていただいていますが、様子を見ているという状態、考えていただけませんか、と投げかけているという、現在はそんな状態です。
　言われるように、それを待っていたらいつになるのか、という側面もありますから、いつまでもこれでいいというわけではなく、審議会の場でも議論していただけたらと思います。
　ただ、これまで４月と言っていた目標は、先ほども言いましたが青谷、気高中の改築によって、ある意味時間に余裕が出来ているという事は間違いないと思います。

事務局　　質問ですが福部の教育を語る会は、色々考えた結果まちづくり協議会が中心になって組織をつくっていったというふうに聞いています。
　まちづくりという中で、将来の福部の子ども達をどう育てていくか、という、そこが中心になったということが、おもしろいと思ってお聞きしました。
　それは、学校側の方はどうなっているのでしょうか、学校とまちづくり協議会、その福部の教育を語る会の中との関係、その辺りを教えていただけませんか。

委　員　　まちづくり協議会のメンバーの中には、小、中の校長、すなっこ園の園長は入っておられますが、特にその中で活動をしているという訳ではありません。
　ただ、まちづくり協議会から発生した福部の教育を考える会の中には、もちろん各学校の校長も入っていただいています。その中で、メンバーが多くなって３０人近くいます。色々な団体の代表という形で入っていただいた方がたくさんおられま

す。その中に地域として存続や学校をどう考えるのかという地域部会、それから学校教育という観点からこの問題を考えようという学校部会の２つの部会に分かれて活動していまして、学校部会の方に校長は入っていただいているところです。

ただ、現状がどうだという話はできると思うのですが、先ほど言われた学校での立場であったり、個人の意見であったりというところが言いにくいというところもあって、今のところ発言は控えておられるのが現状です。

ですので、学校としてこういうふうに考えるとか、こうしたいというような意見はまだいただいていません。どうしても学校の事になりますので、その辺のことについては、これから発言がいただきたいと思っています。

委　員　　世紀小学校区ですが、かつて５０４人の大規模校をつくってしまいました。豊実小学校が２３２人、松保小学校が２１７人、徳尾４０人、徳吉１５人、これを鳥取市が昭和４１年に校区審議会を立ち上げて、答申の中で強制的に合併させました。今考えると考えられないことだと思います。

したがいまして、豊実と松保の住民は、仕方がない、行政がやった事だからとあきらめて、この校区のことに関して全く関心を示しません。何とかしようとか意見を出すようなことはありません。たまに町内の総会等でこの話を出しますが、「今さらそんなことを言っても」と、世紀小学校があるのだからという感じです。それではいけないと、審議会委員に手を挙げたわけです。

このことに１０年前くらいから関心があり、色々調べたりしているのですが、明治は３０人、隣の東郷も３０人、それから小中一貫校にした隣の湖南地区は、小学生が８０人でありながら、近隣にそんな大規模校をつくってしまったのか、何のためにこんな校区割りをしたのか、疑問に思っています。

世紀小学校の校長、教頭、それから高草中学校の校長に経緯等を話し、その時に抱えている課題や実情をお聞きしました。

世紀小学校は豊実、松保、それから明治、そして大正、千代水、城北の６つの地区の子どもが通っています。

また、最初にお話がありました八千代橋を渡って城北小に通っている安長、南安長団地や、世紀小学校のすぐ裏にある緑ヶ丘団地も通っています。

これは異常な姿だと思います。

これは、是非適当な時期に、皆さんに報告して審議していただきたいと思っており、具体的な小学生の数、中学生の数も町区、村別に調べております。

高草中学校の校長、世紀小学校の校長以下現場の先生方は、地域との関係等に苦労されていると思いますが、地元の人はあまり関心がありません。

まちづくり協議会とか区長会とか自治会で、すでにそういう問題に関心をもって取り組んでいる地域はいいのですけれども、話のような地区もあるという事をお話させていただきました。

会　長　　それでは、今後の進め方につきまして、今日の議論を受けて、一度正副会長と事務局で相談させていただいて、どのような形で進めるかということを次回提案させていただきたいと思います。４月にまとまった答申を出すという形は延ばしたいと、会長としては思っています。

一応この任期２年の審議を尽くしてということになりますが、一つ一つの課題でまとまった問題については、途中でも順番に出していくような形を取りたいと思っています。

それから大きなポイントは資料にありますが、第１０期と第１１期で議論されて、規模と通学と適正配置、施設要因と、大きな基本要因が出ています。これは非常に客観的な区分になっています。いわゆる６学級以上なのか５学級以下なのかというところで適正か小規模かということが分かれます。年度によって学級数が変動した

場合に、５学級以下になればA扱いになるという事です。

たぶん地域にうまく伝わっていないのは、緊急度Ａ、Ｂ、Ｃといっても、Ａだけが大変なのだろうという誤解です。校区審議会としてはＡ、Ｂ、Ｃにかかわらず、大きな課題をかかえていますよ、という訴えなのです。

今まで第９期から校区審議会は、地域から出てきた要望を地域に出かけて行って調整しながら、校区を変えたり新しい中学校をつくったり、というふうな形をとっていますので、地域から意見が出てこない限り校区審議会としては動きようがございません。ですから、我々は来年の３月末までにどのような形で地域から声が挙がってくるのか、というのを待っているところなのです。

会長としてのイメージは、「中学校問題がまず先行するだろう」と思います。先ほどパワーポイントを見ていただきましたように、小学校については、「小さな良さ」とか、「地域に根ざす良さ」もあるので、そこは鳥取市方式としては尊重・重視していこうということが出されました。ただし中学校については、１２歳から１５歳の思春期の生徒たちの発達段階として、ある程度の規模の中で学習をしたり、クラブ活動をして、切磋琢磨できる環境も必要ではないか、ということです。

資料で言えば、江山中、福部中、鹿野中と、過大規模で南中が出ておりますけれども、この中学校の中から少し議論が進展しつつある福部、それから西部の事柄で少し意識が高まったり、貴重な機会になった鹿野を含めて西部の中学校のあり方の問題、という課題にまず取り組んでみてはどうでしょうか。一斉に解決するのではなくて、現在各地域の中でそういう受け皿となる組織や、協議出来る体制があるのか、というところを見極めて、可能なところから個別で進めていく、そうでないところについては、そういう条件整備を進める、例えば南中も過大規模問題を抱えていますけれども、まだこちらからの働きかけが出来ておりません。それから江山中をどうするかというようなことも出来ておりませんので、そういうふうなことについても並行して働きかけをして行きたいというふうに思っています。

ただ、小学校について、例えば明治とか神戸というところについては、少し話を進めていますので、話し合いは継続していきながら、どのようなことが可能かという事です。

もう一度説明しますと、人口減少期に入って鳥取市の学校の多くが小規模化の問題を抱えていますよ、という問題提起なのです。そのことを踏まえて、①横に合わせて統合するのか、②縦に連ねて小中一貫校にするのか、③今のまま残しながら小規模の問題を新たな解決方法で工夫して改善するのか、という事です。小規模であるという問題は、明らかにそこにあるわけですから、例えば西部地域の問題で中学校が今のままで耐震補強建替えとなったとしても、何ら問題は解決していないわけです。それなら西部の３つの中学校が校舎は別々であっても、もっと連携活動しようとか、放課後は一緒の活動をしようとか、授業はインターネットを通じて合同の学習をしようとか、何かそういうところに踏み込まない限りは、小規模の問題は克服されません。小規模という課題がある中で、新しい学校の形として、どういうふうなあり方がいいかという議論を、この第１２期の校区審議会は、出来るだけ地域に出かけて行って進めていくことができればな、と思っています。

具体に関しては先ほど言いましたように、少し正副会長と事務局に協議する時間をいただきまして、委員から出ました新しい委員の問題や地域にどういうふうな仕組みをしていくのかということも含めて、次回提案させていただけたらと思います。

委　員　　それと重ねて申し上げますけれども、緊急度Ａの特に中学校で、〇〇地域を考える会をつくっていただきたいのですが、その組織は地域の関連団体等から認知をされた組織でないといけないと思います。地域の人が、良くわからないけれど何か始めたらしい、というような認識の団体では地域の意見をまとめることが出来ないと思います。

事務局は意見の取りまとめに尽力してもらえる、その地域で認知された組織づくりの支援をしていかないといけないと思います。
我々はそういう団体との意見交換会に校区審議会委員として、地域の意見を聞きに出て、そして多様な学校教育のやり方というものを引き出したいわけです。
そういう事がないと、答申書をまとめることができないと思っています。

委　員　今「認知」という言葉が出てきましたけれども、たまたま新市域の福部では地域審議会はあるけれども、旧市内ではそういう組織は無いわけです。それでもやっぱり江山中学校の問題であるとかという事になれば、その地域のどなたかが集まって組織になると思います。それを誰がどうやって、どういう格好で認知するのかというところは、非常に難しいのではないかと思います。
福部では、地域審議会のメンバーもかなりまちづくり協議会の構成員に含まれていますし、地域審議会でもこういうメンバーでやりたいということは再三報告しています。意見もいただいておりますし、地域審議会のメンバーにも入っていただくという格好で動いていますけれども、その中でも本当にこれでいいのか、というふうに言われる方もおられ、そういう訳ではないですけれども、なかなか地域で認知してもらうという方法は、どうやったらいいのかというのは、どこの地域でも困られると思います。

委　員　とても難しいと思います。
委員が言われたように、地区の区長や老人会長、婦人会長や育成会会長が各町内、村ごとにありますけれども、みんな１年間で交代されます。ですから、仮にその時に認知し、みんなでこの問題を捉えて勉強会や議論をしても、代表者の交代によって、一からになることが多いので、継続して議論することは、恐らく難しいと思います。
どうやって地域に認知された組織を定着させるかということは、地元から出ているものとしては、とても難しいと思います。

会　長　次回その辺りも考えていきたいと思います。
では、次回２回目で２年間の進め方について検討します。なお、答申については４月にこだわらずに色々な形を工夫していくということで、今日のところは納めたいと思います。
では、事務局の方でお願いします。

事務局　長時間に渡りまして協議いただきありがとうございました。
「配慮」という言葉、人に配慮するとか、思いやるとかよく言いますが、改めて７名の新しい委員の皆さんに対する事務局として、心配りがもう少しあったほうが良かったと、ある意味事務局も勉強させていただきました。ありがとうございます。
協議の中で教育長も始めに申し上げました、夢や希望、それから創意工夫、こういうキーワードをもって新しい学校の枠組みづくりというものを考えていくのは、今やらないと時代が変わってきています。そして我々が子どもの頃、学校生活で暮らしていた時間以上にすごいスピードで世の中が動いています。そういうものをしっかり見据えながら、自分の思いを伝えることはもちろん大事ですが、根底には目の前にいる子どもをどう将来に向かって育てていくのかという視点の中で、話し合いをしていただければありがたいなと思っております。
昨日ある地域づくり懇談会でこの地域にはお医者さんがいないので、現在は鳥取大学や県に協力をいただいて派遣をしていただき、続いているということを聞きました。例えばそういう現実に課題があるのであれば、地域から医者をつくるということを一つの目標として、学校も地域も一緒になって取り組んでいってはどうだろ

うかということを思いました。それが一つの新しい地域の学校づくりにつながっていくのではないかと思います。その中で、取り組むためにはどんな教育をしていったらいいのだろうか、どういう仕組みを今の学校や教育活動に取り入れていったらいいのだろう、という議論が生まれてきます。つまり目標を明確にして自分たちのビジョンをもつ中で、動きというものがはっきりしてくると思うのです。

是非ともそういう議論がこの第１２期の校区審議会の中でしていただきながら、本当に学校に伝わっていくような審議をしていただくことを期待しておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

本当に長時間に渡り本日はありがとうございました。

（終了）